

- 問1 九州地方に位置する宮崎県の面積や人口の特徴について、近畿地方の大阪府や兵庫県と比較して説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2025年 愛媛県公立入試 類似)
1. 面積は大阪府よりも狭く、人口も香川県に次いで全国で最も少ない部類に入る。
 2. 大阪府よりも面積は狭いが、兵庫県よりも人口密度は高い。
 3. 大阪府や兵庫県よりも面積は広いが、人口密度はこれらの府県よりも低い。
 4. 面積は兵庫県よりも広いが、総人口も大阪府よりも多いため人口密度は非常に高い。
- 問2 九州地方の各県の産業について述べた次の説明のうち、宮崎県と福岡県の特徴を正しく組み合わせたものはどれですか。 (2023年 三重県公立入試 類似)
1. 宮崎県は平野部を中心に稲作が盛んで米の産出額が九州で最も多く、福岡県は畜産が県内の農業の大部分を占めている。
 2. 宮崎県は農業産出額において畜産の占める割合が非常に高く、福岡県は九州地方で最大の工業出荷額を誇っている。
 3. 宮崎県は工業出荷額が九州地方の中で最大規模であり、福岡県は農業産出額において米の産出額が畜産を上回っている。
 4. 宮崎県と福岡県はともに農業産出額のうち米の割合が最も高く、工業については佐賀県の出荷額が九州で最大である。
- 問3 九州地方の種子島において、宇宙センターの建設やサトウキビの生産といった産業が発達した要因となる、この島の地形的・気候的な背景として最も適切な説明はどれですか。 (2019年 東京都公立入試 類似)
1. 島全体に平坦な丘陵が広がっており、大規模な施設の建設や農地の確保が比較的容易であったため。
 2. 銘柄米の生産に適した広大な平野と、一年を通じて冷涼な気候が維持されていたため。
 3. リアス海岸が発達しており、大型船によるロケット機材の搬入や、寒冷な気候を活かした漁業が盛んであったため。
 4. 標高の高い険しい山岳地帯が島の中央にそびえ、宇宙観測に適した気流の安定した環境があったため。
- 問4 近年、持続可能な発展を目的として注目されている「エコツーリズム」の基本的な考え方や取り組みとして、最も適切なものはどれですか。 (2025年 和歌山県公立入試 類似)
1. 交通網の整備や大規模な宿泊施設の建設を優先し、短期間にできるだけ多くの観光客を呼び込んで経済効果を高める。
 2. 農村や山村に滞在して農業体験や地元の人々との交流を楽しむことで、過疎化が進む地域の活性化を目指す。
 3. 自然環境を完全に手つかずの状態に残すために、観光客の立ち入りを厳格に制限し、学術調査以外の目的での利用を禁止する。
 4. 地域の生態系や自然環境を保全し、その価値を損なわない範囲で体験や学習の場を提供することで、環境保護と観光を両立させる。
- 問5 鹿児島県では農業産出額が全国トップクラスであるとともに、製造品出荷額の第1位を「食料品」が占めています。このように、鹿児島県の工業において食料品工業の割合が高い理由として最も適切な説明はどれですか。 (2016年 山形県公立入試 類似)
1. 高速道路沿いに半導体工場などの先端技術産業が集積したことで、そこで働く労働者向けの冷凍食品製造が急増したため。
 2. 広大な平野を利用した稲作が中心であり、余った米を酒類や菓子類に加工して大都市圏へ大量に輸送する体制が整っているため。
 3. 県内で盛んな畜産業や畑作によって生産された農畜産物を原料とし、それらを加工して付加価値を高める産業が発達しているため。
 4. 大規模な港湾施設を活かして海外から安価な穀物を輸入し、臨海部のコンビナートで加工してから全国に配分しているため。
- 問6 宮崎県では、ピーマンやきゅうりなどの野菜において「促成栽培」という手法がとられています。この栽培方法の説明と、その目的の組み合わせとして最も適切なものはどれですか。 (2023年 長崎県公立入試 類似)
1. 温暖な気候を活かして成長を早め、他の地域の出荷が少ない時期に販売して高い利益を得る。
 2. 台風の被害を避けるため、収穫時期を秋から夏に前倒しすることで、輸送コストを削減する。
 3. 冬の積雪を防ぐために大規模な温室を作り、一年中同じ価格で安定的に野菜を供給する。
 4. 夏の涼しい気候を活かして成長を遅らせ、他の地域の出荷が終わった時期に販売して価格を安定させる。
- 問7 高度経済成長期の日本において、北九州市などの工業地帯を中心に発生した、工業化に伴う環境破壊を総称して何と呼びますか。また、その主な内容を説明したものとして適切なものはどれですか。 (2017年 長野県公立入試 類似)
1. 公害：工場から排出される排煙による大気汚染や、排水による水質汚濁などのこと。
 2. 自然災害：台風や地震などの自然現象によって、建物や人命に直接的な被害が出ること。
 3. ヒートアイランド現象：都市部の建物やアスファルトの影響で、周辺部より気温が高くなること。
 4. 地球温暖化：化石燃料の使用によって二酸化炭素が増加し、地球全体の気温が上昇すること。
- 問8 鹿児島県の養豚業における統計的な特徴について説明します。1964年には約5万戸あった飼育戸数が、2014年には約1千戸まで激減している一方で、県全体の総飼育頭数は約100万頭から140万頭の間で維持、あるいは微増しています。このデータから読み取れる、現在の鹿児島県の養豚業の状況として正しいものを選びなさい。 (2017年 滋賀県公立入試 類似)
1. 小規模な農家が多数残っており、伝統的な飼育方法が守られている状況。
 2. 養豚農家の減少に伴い、県全体の豚肉生産能力が著しく衰退している状況。
 3. 1戸あたりの飼育頭数が大幅に増加し、経営の大規模化が進んだ状況。
 4. 飼育戸数と総飼育頭数の両方が減少したことで、豚肉の希少価値が向上している状況。
- 問9 九州地方南部のシラス台地において、古くから水田稲作ではなく、サツマイモなどの畑作や畜産業が盛んに行われてきた理由として、土壌の性質から説明したものとして適切なものはどれですか。 (2020年 静岡県公立入試 類似)
1. 標高が高く気温が低いため、熱帯性の作物である稲の栽培が困難だったため。
 2. 地盤が非常に軟弱であり、重い農機具を利用した大規模な耕作に適さなかったため。
 3. 土壌に塩分が多く含まれており、稲の成長を阻害する性質を持っていたため。
 4. 火山噴出物でできた地層は水はけが非常に良く、水田に必要な水を貯めておくことが難しかったため。
- 問10 安価な外国産牛肉の輸入量が増加し、国際的な製品との競争が激しくなる中で、宮崎県の畜産農家が進めている取り組みとして適切な説明はどれですか。 (2022年 宮城県公立入試 類似)
1. 牛肉の生産を段階的に縮小し、すべての農地を輸入の影響を受けにくいサトウキビ栽培に転換する。
 2. 「宮崎牛」などの名称でブランド化を推進し、品質の高さや安全性で輸入品との差別化を図る。
 3. 海外の安い飼料を使わず、国内産の高級な牧草のみを使用することで、販売価格を輸入品の10倍以上に設定する。
 4. 大規模な機械化によって生産コストを輸入牛肉よりも低く抑え、価格の安さで勝負する。
- 問11 九州南部の鹿児島県では、山地が約70.6パーセントを占める一方で、台地の割合も約20.8パーセントと全国平均に比べて非常に高い特徴があります。この広大な台地が形成された背景として最も適切な説明を選びなさい。 (2017年 滋賀県公立入試 類似)
1. 過去の火山活動によって噴出された火山灰や火砕流などの堆積物が厚く積み重なったため。
 2. 火山の噴火によって地下のマグマが噴出し、山体の中央部が大きく陥没して窪地となったため。
 3. 河川が山間部から平野部へ出る際に、運んできた土砂を扇状に堆積させたため。
 4. 海岸近くにおいて、風によって運ばれた砂が長い年月をかけて堆積し、丘状の地形を作ったため。